

た。

二俣到着8:55。出合から約1時間である。左俣を遡って右俣を下降ということにして、左俣に入るが、結果から言えば、逆コースをとるべきであった。

左俣は2~3mの滝がいくつかがかかるが、別に困難というほどのものでもない。やがて7mの斜瀑となる。これを越えて少し進むとヤブとなったので、右岸の尾根に取り付く。30分の急登で、袖の窪山頂に立った。

袖の窪山頂で押倉沢パーティと無線交信。押倉沢パーティははるか下方で悪戦苦闘の様子。天気もいいし、時間はあるしということで、山頂でトカゲを決め込むが、これが大きな失敗につながるとは夢にも思わなかった。(記・)

[タイム] 大松沢出合(8:00)→二俣(8:55)→沢終了(10:30)→袖の窪山山頂(11:00)

大松沢右俣

1989年8月26日

L.

袖の窪山頂より尾根を北西に少し進んだ所から下降開始。急斜面を木につかまりながら下降。遡りはたいしたことがなかったから、帰りも楽だろうなどと考えたのが、大きな間違いであった。

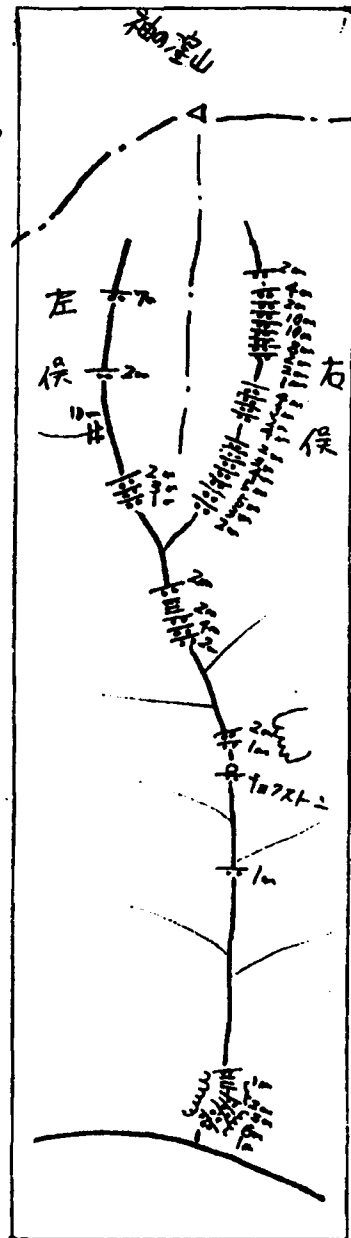
右俣は、二俣まで連瀑、連瀑、連瀑……。

ザイルを出しては回収の繰り返しである。何回繰り返したかわからない。記録をとりとり下るが、最後にはメモをとるのもいやになってしまった。捨て縄の数も心配になってくるほどである。

14:55、やっとの思いで二俣。左俣の遡行に2時間。右俣の下降には3時間もかかってしまった。

あとは来た道に戻るだけ。霧来沢出合着16:00。長い一日であった。

(記・)



【タイム】 袖の窪山山頂(12:00)→下降開始(12:10)→二俣(14:55)→霧来沢出合(16:00)

二の平沢

1989年8月26日

Li

13:10二の平沢の下降開始。稜線直下から小沢の流れが始まっている。所々ナタ目があり、この沢を通う人がいるようである。樹林帯の中の細い流れが続いて、どんどん下ってゆく。30分程下った所で1mの滝が出てくる。この沢最初の滝であるが、なんとも規模が小さい。

更に30分程下ると、7mの滝。この沢最大の滝であるが、左岸を楽にクライミングダウンできる。とにかく、この沢は滝に乏しい。二の平沢というくらいだから、平坦な場所を流れているのだろうと話しながら下降を続ける。

右岸に針金を張ってある3mナメ滝を下ると、沢はまったく平坦な流れとなった。そしてアシの群落が見られる。アシは河原全体を覆うように茂っている。このあとすぐ滝沢川本流との出合となった。

滝沢川はアシ原の中をゆったりと流れている。今日の行動は事実上これで終わりだと誰もが感じた。ところがである。この先もう一つのハイライトが我々を待っていた。まずはなだらかな流れが早瀬に変わる。そして4m滝。本流だけに水量が多く、迫力がある。その下のチョック滝は腰まで水につかて釜を渡る。そして最大のハイライト、6m滝。右岸に巨岩が重なり、一見簡単には下れそうにない。しかし、巨岩と巨岩の間の穴を潜りぬければ、そこから下は簡単に下れた。本流のハイライトはこれで終わり。すぐ幽の沢出合。幽の沢は出合が廊下になっている。幽の沢右岸の登山路に上がろうと思って少

